

二世豊竹古靱大夫床年譜 (十)

(轉載不許)

年 次 劇場並に狂言

古靱大夫に關する記事

淨瑠璃界一般

大正六年

十月廿三月初日

(二日 間)

満洲並に朝鮮巡業(つゞき)
大邱 錦 座

十月廿五月初日

(三日 間)

釜山 釜山 座

十月廿八日

十月三十月初日

(三日 間)

門司 旭 座

十一月二月初日

(七日 間)

博多 九州劇場

十一月九月初日

(五日 間)

熊本 大和 座

十二月十七日初日

(五日 間)

長崎 三七三座

十二月十三日初日

(五日 間)

廣島 大黒 座

大正七年(四十一歳)

一月二日初日

(三十一日間)

前 菅原傳授手習鑑 文 樂 座
壽三番叟 大序より
夫婦春駒萬歳 寺子屋之段迄

釜山より高麗丸に乗船、内地へ歸航す

本興行打揚後、一先づ歸阪

文樂座の改築成りて最初の興行なれば御祝儀として壽三番叟を上演す。南部大夫病氣の爲め再び休演。

年次

劇場並に狂言

古親大夫に關する記事

淨瑠璃界一般

新版歌祭文
野崎村之段より
道行之段迄

役場
(初役) 三番叟
三味線 六世野澤吉兵衛
吉寛 三治郎 衛
勝 雄市郎

(二度目) 筑紫配所之段
三味線 八世野澤吉彌
ツレ 豐澤猿次郎

二月十日 初日
(二十八日間)

前 里見八大傳 大序より
同 芳流閣迄 座
中 伽羅先代萩 提伐より
御殿迄
切 壺坂靈驗記 土佐町より
澤市内迄

役場
(二度目) 澤市内之段
三味線 八世野澤吉彌
ツレ 鶴澤友造

越見大夫、竹本町大夫と改名す

三月十七日 初日
(二十五日間)

前 妹脊山婦女庭訓 大序より
同 退治之段迄 座
退治之段迄

役場
(三度目) 山之段
掛合 久我之助
三味線 六世鶴澤友次郎
(二度目) 杉酒屋之段
三味線 八世野澤吉彌

三月十一日、四世豐澤富助(本名、石田友太郎)東京にて歿す。法名眞性院豐友信士、行年五十三。法名眞野澤一彌、三世野澤錦糸を襲名。

四月十九日 初日
(三十三日間)

前 加賀見山舊錦繪 大序より
同 七ツ目迄 座
中 攝州合邦辻 萬代池之段より
合邦住家之段迄
次 義士銘々傳 百姓彌作鎌腹之段
切 双蝶々曲輪日記 道行狂亂之段

役場
(初役) 萬代池之段
三味線 八世野澤吉彌
病氣の爲め一週間休演
八十大夫代役を勤む。

五月廿六日初日
(二十一日間)

前 祇園祭禮信長記 同 大序より
三段目迄 座

中 一谷嫩軍記 陣門之段より
熊谷陣屋之段迄

次 生寫朝顔話 島田驛宿屋之段
道行夢路之段

六月廿三日初日
(十八日間)

前 碁太平記白石嘶 同 大序より
七つ目迄 座

中 岸嶋松響鑑 飯原兵衛屋敷之段

次 國首詢音頭 北新地大重五人伐
之段

切 日吉丸稚櫻 道行懸路の折枝

七月十四日初日
(十五日間)

外題五日替(人形入) 東京 有 樂 座

七月廿九日初日
(三日間)

鎌倉 鎌倉 劇場

役場 (初役) 芥子畑之段切

又復病 三味線 八世野澤吉彌
氣の爲め六月二日より十日
迄休演、八十大夫代役を勤む

役場 (二度目) 飯原兵衛屋敷之段中
三味線 八世野澤吉彌

本興行終了後、古靱大夫、吉彌と圓
満、談合の上別れ、木村利玉氏、鹿
海菱、文氏及び六世鶴澤廣助師の幹旋
にて、從前通り六世鶴澤清六、古靱
大夫の合三味線となり東京巡業より
實現す。

出勤者

古靱大夫、清六、鍛大夫、徳太郎
一 つばめ大夫、芳之助、町大夫、英大夫、清
三 ばめ大夫、猿太郎、清二郎、清

(人形部)

文五郎、玉五郎、玉次郎、玉七、
紋三外十六名

役場 第一、沼津里
第二、安達ヶ原三段目
第三、野崎村

前記連名より鍛大夫、静大夫、徳太
郎並に人形を除きたる一座

五月三十一日、四世豊澤廣作(本名
山田新治郎)歿す。前名仙昇、法名
清遊軒廣作居士、行年五十四。

六月廿九日、八世鶴澤三三(本名、
佐山種三郎)歿す。法名寂光院淨譽
清風居士、行年五十七。

是にて夏休。

年次	劇場並に狂言	古親大夫に關する記事	淨瑠璃界一般
八月六日 初日 (八日間) 九月七日 初日 (二十六日間) 十月十日 初日 (二十五日間) 十一月十日 初日 (十五日間)	竹本越路大夫一座 道頓堀 中 座 文 樂 座 前 双蝶々曲輪日記 大序より 攝州渡邊橋供養 引窓之段迄 中 戀飛脚大和往來 新口村之段 東海道四ッ谷怪談 伊右衛門 住家之段 切 源平布引瀧 同 座 島山古跡松 大序より四段目迄 中 右大臣豊成館之段より 中將姫雪實之段迄 切 名筆吃又平 土佐將監閑居之段より 大津繪畫抜け之段迄 前 太平記忠臣講釋 大序より 心中天網島 紙屋内之段迄 中 玉藻前旭袂 右大臣道春館之段 戀姫昔八丈 尾花屋敷之段より 白木屋之段迄	出勤者 越路大夫、吉兵衛、津大夫、友治 郎、古親大夫、清六、源大夫、勝 市、八十大夫、錦糸外大勢 役場 (初役) 伊右衛門住家之段切 三味線 三世鶴澤清六 役場 (二度目) 右大臣豊成館之段次 三味線 三世鶴澤清六 (座敷半) 役場 (初役) 白川村兵法指南之段切 三味線 三世鶴澤清六 琴 鶴澤清一	十三日千秋樂の夜、米騒動の爲め興 行途中に於て閉場となる。 豊澤竹三郎久々にて入座出勤。 野澤吉彌は元通り竹本彌大夫の合三 味線となり出勤す。 十月八日、六世豊竹岡大夫(本名仁 木卯三郎)歿す。法名秋岳。守信士 父にして六世岡大夫は現、猿太郎の め、綾榮大夫を名乗り後、彌大夫と改め 後年大綱大夫とも名乗り、更に岡大 夫名跡を襲ふ。 本興行中、人形部吉田三吾歿す。 本興行より竹本彌大夫文樂座に於て 初めて追出し附物「白木屋」を語る。 是にて冬休。